

浜中社 関東ブロック大会実行委員会

2019年 9月号

# 関東ブロックだより

発行 浜中社関東ブロック大会研究チーム (担当 森中 田中良樹)

## 9月18日 地理部会の紹介 (老松中学校 石井先生より)

検討した指導案単元は次の通りです。夏休みの全体会での意見(単元名を工夫した方がよい、教師の問題意識を突き詰めるなど)を受けて単元名、内容も充実してきました。

- ・日本の食料自給率から考える世界の水  
(日本の食料自給率が海外の水不足、水質汚濁等の水問題に関わっていることをバーチャルウォーターの視点から迫る)
- ・リニア中央新幹線によって、誰が最も利益を得るのだろうか？  
(リニア中央新幹線が通ることによって、その中間都市は発展するのかを考える。そのため、「誰が最も利益を得るのだろうか」の部分は再検討。)
- ・タンザニアの人々の10年後のために～タンザニアの人々が自立するために稲作分野における支援を考えよう～  
(前回の取組をさらに深化させるために、ガーナの農業について新堀先生がTICAD7で実際の声を聴いてきました)
- ・予測困難な自然現象とともに生きる～関東・東北豪雨に学ぶ自然災害～  
(関東・東北豪雨について、地形図から原因を追究し、災害がもたらす被害、災害復興のためにできることを考える)

指導案検討の中で印象的だったのは金沢中学校の井上先生の言葉でした。「アフリカや、災害を扱う授業では、私たち授業者は、支援する側の立場にたっていることから、上から目線に見られるような表現を使ってしまったり、授業をすることで、自分たちがマジョリティ側であることを再確認することで終わってしまったりすることがある。貧困や、被災など、様々な事情を抱えてこられる方々を思うと、このことに触れることをためらう自分もいる一方で、社会科教諭として、やらなくてはならない、伝えなくてはならない大切なことだと思ふ葛藤に苛まれる。このこと自体が授業者の大きな問題意識であるから『単元設定の理由』に書くことができないだろうか」内容を要約するとこんな感じでした。

11月27日に浦島丘中学校で行われる大野先生の研究授業では、日本の諸地域の中部地方を扱いたいと委員の先生方で決めました。(巡検地でもあったので)次回の10月23日までに委員の先生方それぞれが中部地方について指導案を書いてくる予定です。

## 地理的分野の実践例

単元名「絵日記で比較しよう。暑い地域と寒い地域の生活の知恵や工夫」

「(1) 世界の様々な地域 イ 世界各地の人々の生活と環境」で生徒が下のような絵日記を作成し、暑い地域と寒い地域の比較をしました。

生徒の学習活動（2時間）

- ①暑い地域と寒い地域の絵日記を書く。
- ②4人小グループで暑い地域と寒い地域の比較をする。
  - ・各自が絵日記や資料集などから、暑い地域と寒い地域の自然環境や生活の様子などの違う点と同じ点（よく似ている点）をあげる。それを色分けした付箋紙にまとめ、模造紙にはってまとめていく。
- ③グループで確認したことを発表して、クラスでシェアする。
- ④日本の自然環境や生活の様子と比較して、文化の多様性に気がつくようにする。

暑い地域の絵日記（例）

寒い地域の絵日記（例）

### 【資料】

生徒の書いた「暑い地域の絵日記」と「寒い地域の絵日記」

生徒がそれぞれの地域の気候を資料から予想しながら、その地域の人々の暮らしについて家のイラストなどを交えて描いている。

### 教師の問題意識

世界にはさまざまな自然環境があり、それに基づいた生活文化がある。私たち（日本の生活文化）から見たら、他の地域の生活の様子が合理的に見えないものであっても、その土地では、伝統や自然環境からみて合理的なものである場合が多い。狭い視野（狭いナショナリズムや自国中心主義）に立つことなく、その土地ならではの合理性を尊重し、文化の多様性を理解できる広い視野を生徒に身に付けさせたい。